

[要旨]

韓国の非正規職保護をめぐる 労働組合と社会運動の連携に関する一考察

——「非正規労働者基本権保障と差別撤廃のための共同対策委員会」の事例を中心に——

金 美珍

本稿の目的は、韓国の非正規保護法の成立過程における労働組合と社会運動団体の連携関係に注目し、多様なアクターの合意を形成するに至った政治的過程とその影響力を検討することである。具体的には韓国の「非正規労働者基本権保障と差別撤廃のための共同対策委員会（以下、非正規委員会）」の事例をとりあげ、同委員会に結集したさまざまな運動団体の特徴及び、韓国社会運動の歴史的文脈における政治的指向性の違いを検討した。既存の研究は労働組合の役割に集中し、非正規委員会に結集した各運動団体の特性と、韓国における社会運動の歴史的文脈を視野に取り込まない傾向が強い。これに対し本研究は、社会・市民運動団体間の歴史的関係を視野に入れつつ、同委員会に参加した諸団体の関わりのあるあり方の内実を把握する。その際、共通の関心、連携の構造、参加団体の能力とコミットメント、連携活動のスケール、という連携形成の4つの要素を分析視角として用いる。

本研究では、異なる政治的志向性や運動のスタイルを持つ諸団体が非正規委員会に参画していたことと、諸団体ごとのコミットメントの度合いに違いが見られることを明らかにする。そのなかでも特に、労働組合のみならず、市民運動団体と女性運動団体などの積極的な関与について明らかにすることで、市民運動団体の役割を浮き彫りにする点が本研究の特徴である。